



2025年4月18日

各位

会社名 株式会社インターアクション  
代表者名 代表取締役社長 木地 伸雄  
(コード番号 7725 東証プライム市場)  
問合せ先 社長室 I R 担当  
電話番号 045-263-9220

## 2025年5月期第3四半期決算説明会 質疑応答（要旨）

当社は、2025年4月11日に2025年5月期第3四半期決算説明会をオンライン配信により実施いたしました。本資料は、同説明会での質疑応答について主な内容をまとめ、公表するものです。なお、理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

---

**質問1**：2025年5月期通期連結業績予想の数値について、決算短信では第2四半期公表時点の数値から変更がない一方で、決算説明会資料では当該業績予想を上回る見通しであるかのような表現が見受けられるが、実態はどうか。

**回答1**：実態としては上振れ傾向であるが、業績予想修正の適時開示基準に該当しない範囲内での上振れであり、今後様々な要因により数値が変動する可能性もあるため、決算説明会資料上での表現にとどめている。

---

**質問2**：当第3四半期（3ヶ月間）の営業利益について、予想数値は赤字となっているが実績数値だと黒字となっており、予実対比で約2億円の上振れとなっている。この要因は何か。IoT関連事業以外の事業が寄与しているのか。

**回答2**：主にインダストリー4.0推進事業の歯車試験機分野において製品の販売が好調に推移したことが要因。また、当事業に対して継続的に取り組んできた収益性改善活動（VG戦略室）の成果がようやく数字として見え始めたと認識している。

---

---

質問3：米国の関税措置による事業への影響について、直接的な影響は無いと認識しているが、間接的にはどのような影響があると考えているか。

回答3：現時点では不透明感が高く明確な予測は困難である一方、関税措置に伴う駆け込み需要、すなわち「今のうちに買っておこう」という動きにより、一時的に需要が高まる可能性もあると考えている。仮に関税によって事業にマイナスの影響が生じたとしても、当社としてはそのような外部環境に適応し、より付加価値の高い製品や効率性の高い事業構造の構築によって対応する方針であり、現時点において大きな懸念は抱いていない。

---

質問4：来期（2026年5月期）の業績見通しに関し、当第3四半期の連結受注残高が1,781百万円となっている一方で、第4四半期（3ヶ月間）の連結売上高予想が1,545百万円となっている。この状況を踏まえ、来期に向けた受注の状況について教えて欲しい。

回答4：2026年5月期の上半期は顧客側の設備投資需要が一時的に落ち着く可能性があり、上半期後半～下半期頃での巻き返しを想定している。一方で、中長期的には2027年5月期を一つの勝負の年と位置付けており、それに向けた準備を着実に進めている。この見立ては、イメージセンサの進化（大判化等）に伴い、顧客側において製造効率の変化や取れ高の減少等が発生することにより、生産数量確保のために再び設備投資が必要になるとの見込みに基づくものである。また、仮に設備投資が一時的に減少した場合であっても、他事業によって成長を実現できる体制の整備を進めている。

---

質問5：キャッシュアロケーションにおける、キャッシュの使途とその時間軸について、もう少し具体的に教えて欲しい。

回答5：キャッシュの活用に関する時間軸について、中長期的には今後の5年間で重要な期間と位置付けている。この期間において、いかに適切な投資を行うかが、2030年以降の当社の姿を大きく左右すると認識している。短期的には、特に今後1～2年を事業投資・戦略投資の集中期間と捉えており、人材投資を起点として、事業、システム、AI、パートナーシップ等への投資を進めていく方針である。また、キャッシュを保有すること自体が信頼の獲得に繋がると共に、戦略的パートナーとの連携を進める上でも重要であると考えているため、財務の健全性と成長投資のバランスを鑑みながら活用していく。

---

---

**質問6**：瞳モジュール® について、国内のシェア状況と、海外顧客に対する量産導入の進捗を教えてください。

**回答6**：国内のシェア状況に大きな変化はないものの、競争力のある製品開発を進めており、巻き返しに向けた体制は整いつつある。お客様の生産性向上を軸に今後も継続的な研究開発を行っていく。

海外顧客への量産導入については、スモールスタートながら着実に進捗しており、現在は量産に向けたプロセスを調整している段階である。量産が本格化すれば更なる収益への貢献が見込まれる。

---

**質問7**：瞳モジュール® の自動製造ラインの稼働は2026年5月期中とのことだが、進捗状況はどうか。

**回答7**：2026年5月期中の稼働を目指し概ね予定通りに進捗しており、既に一部設備については搬入が始まっている状況である。国内におけるシェア奪還及び海外展開に対しては、高品質かつ安定的な供給体制の構築が不可欠であり、その必要性を踏まえて自動製造ラインへの投資を行っている。

また、この自動製造ラインは、これまでの当社のものでつくりとは一線を画す、新たな基盤となると考えている。

---

以上